

第32回総代会の発言(要旨)

利用しづらい新予防給付 事業所に 入る収入も減



大澤千恵子さん
(ヘルパーステーション
すずらん・統括所長)

2006年4月から、介護保険制度の利用の仕方が「新予防給付制度」につりかえが行われました。介護度が今までより低く認定される傾向があり、人間らしく生活できる介護支援をおびやかす傾向があります。また経営的にも、今までと同じ仕事をしても、自治体から入ってくる介護報酬が少なくなり厳しい状況です。ヘルパー不足もあり、総代のみならず、お知り合いにヘルパーさんがいらっしゃるご紹介します。

4年目を迎えた 「虹の家みちづか」



橋本雪子さん
(グループホーム
虹の家みちづか所長)

「みちづか」ができて、あっという間に3年がたちました。4人の方は入所以来生活されています。2人は施設へ、1人はアメリカへ行かれました。大田区内には、13カ所のグループホームがあるのですが、「みちづか」には、毎日のように「空いていませんか?」の問い合わせがあります。電話をいただいた全員の方を入居させられれば

と思っていますが、定員もあり難しいのが実態です。みんなの力で2カ所目のグループホーム建設を成功させましょう。

他の支部でもぜひ 配食サービス



名和厚子さん
(大森西北支部)

配食サービス「けやき」も4年目を迎えました。現在、毎月曜日(20食前後)のお弁当をつくり、お届けしています。年末の「おせち料理弁当」のとくくみは大変喜ばれました。配食と会食の要求のレベルの違い、対象の違いなど大変な点もありますが、できるだけ長く続けていきたいと思えます。また、ぜひ他の支部でも、配食サービスを立ち上げてほしいと思います。その際は、協力・援助いたします。

「若返り班」をつくり、 本当に若返り



安田久美子さん
(大森糞谷支部)

2005年の12月に第1回の班会が開催されました。当時は班長を決めずに行っていました。しかし、月2回を定例班会と決め、確実にかさやうてきました。「健康チェックを各自でやる」「血圧等のデータを各自でグラフに記入する」「ストレッチ体操を毎回1時間

行う」このようなことを行う中で、楽しく体が楽になり本当に若返ったような気がするとの声も聞かれるようになりました。現在18人の方が参加されています。体の若返りとともに心の若返りもできました。

地域に大きく うってでよう



渡辺征四郎さん
(うのき雪谷支部)

うのき健康体操の会には、現在72人の会員がいます。私は、城南保健生協の健康運動サポート・養成講座を卒業し、日生協医療部のテーマでもある「地域まるごと健康づくり」を実践しよう、この会を立ち上げました。昨今、自治体や民間企業では、健康づくりに力を入れ、数百人規模のフェスティバルなども多くとりくまれています。城南保健生協も大きくうって出ることが大事ではないでしょうか。

4歳から大人まで 楽しいドルフィン



川口ゆか子さん
(城南ドルフィン)



倉茂信吾さん
(城南ドルフィン)

城南ドルフィンは、約20年前にゆたか病院にかかっていた喘息児を持つ父母が立ち上げました。「みんなでつくる、みんな

のドルフィン」を言葉に楽しく泳いでいます。親睦ハイキング、海の合宿、クリスマス会、原水禁止大会への代表派遣なども行っています。ドルフィンは、「子どもが真ん中」にいて、体も心も鍛えられる場所です。

「一緒に「ヨーガ」 をやりましょう



池田とくさん
(六郷支部)

私は毎週木曜日の夜「六郷ヨーガ」に通っています。30代から70代までの方がいらしています。加齢とともに参加人数が減ってきたのが悩みの種です。興味のある方、ぜひ一緒にヨーガをやりませんか? 第1週と第3週は呼吸法、ストレッチを中心に、第2週と第4週はヨーガの基本を行っています。どなたでもできますので、皆さんの参加ぜひお待ちしています。

ゆたかの家の今

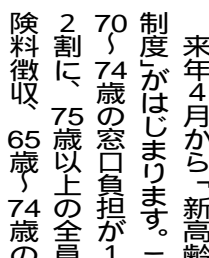


古口敏行さん
(豊支部)

昨年10月に、7年間行ってきた「食事会」を中断することになりました。このことは、今年2月の「城南の保健」でお知らせしてきました。また、ゆたか病院が病棟を閉鎖することによって、ゆたかの家としてもさまざまな面からバックアップしていきたいと考えています。現在、ゆたかの家では書道や生け花をやっていますが、今後も生協が

めざすネットワークづくりを一緒に進めていきます。

後期高齢者医療制 度 看護師不足



井口文子さん
(大田病院事務長)

来月4月から「新高齢者医療制度」がはじまります。これは、70~74歳の窓口負担が1割から2割に、75歳以上の全員から保険料徴収、65歳~74歳の国保料を年金から天引き、などというものです。このことにより、病院にかかりたくてもかかれない方が出てくるのは目に見えています。手遅れになる原因にもつながります。また、看護師不足も深刻な問題です。このような状況にありながら、都は、4つの看護学校をつぶしました。福祉を切り捨てる国や都のやり方を許さない運動を一緒に強めていきたいと思います。

ゆたか病院 ゆたか診療所へ



伊藤邦夫さん
(ゆたか病院事務長)

ゆたか病院が病棟を閉鎖して「ゆたか診療所」となります。私が事務長をしている時に大変大きな役割を背負ってしまいましたが、一番の要員は赤字幅が広がってきたことによるものです。この間、経営面においては努力してまいりましたが、「診療報酬」という国の政策のもとで、中小病院であるゆたか病院がこのまま病棟を続けていくの

は困難であるとの結論になりました。病棟閉鎖にあたっては、町会単位、生協の支部の皆さまにも説明会を行い理解を促してきました。今後とも地域の皆さまと一緒にすすんでいきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

青空健康相談を行う 中から往診 今度は 配食サービスを



工藤人喜江さん
(うのき雪谷支部)

矢口都管住宅に住み、32年になりました。昔は子どもたちがたくさんいましたが、今はお年寄りがひっそりと暮らしているといった感じです。今年は、住宅の前の公園で青空健康相談を6回行いました。そんなとくくみの中から、うのき診療所に行く患者が増え、往診も2件ついています。引き続きこの運動を続けていくとともに、今度は配食サービスを立ち上げていきたいと思います。

アスベスト問題 について

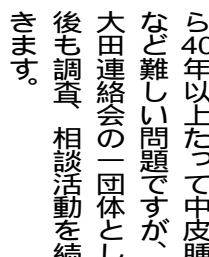


野口修二さん
(城南保健生協事務局)

アスベスト問題は全国的な問題になっています。アスベスト被災者対策大田連絡会が昨年9月20日に結成されました。このことは、NHKの首都圏ニュースでも取り上げられ放映されました。大田区では、大森南の宮

寺石綿で働いていた方が石綿により肺ガンで亡くなったのをはじめ、調査により、区内ではアスベストが原因と思われる亡くなった方が9人います。全国的には、2005年のクボタ尼崎工場周辺の住民の被害が大きく取りざたされています。アスベスト問題は環境問題として捉えることが大切です。暴露してから40年以上たつて中皮腫になるなど難しい問題ですが、生協も大田連絡会の一団体として、今後も調査、相談活動を続けていきます。

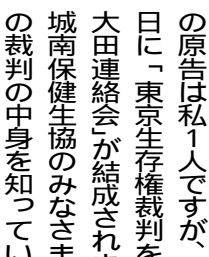
東京生存権裁判 について



神原芳治さん
(馬込山王支部
東京生存権裁判原告)

東京生存権裁判は、70歳以上の生活保護受給者に乗せ支給する「老齢加算」の廃止で憲法25条が保障する「最低限度の生活」ができなくなったと13人の原告が居住する区や市の福祉事務所を相手取り東京地裁に提訴しているものです。私は、その原告の中の1人です。大田区内の原告は私1人ですが、3月6日に「東京生存権裁判を支える大田連絡会」が結成されました。裁判の身を知らせていただくとともに、支援していただければと思います。ぜひとも、ご協力をお願いします。

東京大気汚染公害 裁判について



和田栄子さん
(東京大気汚染公害
裁判原告)

自動車排気ガス公害に苦しむ喘息公害患者は謝罪を求めて11年たたかしてきました。先日首

5回目の 品川健康まつり



松川久男さん
(西品川支部
品川健康まつり実行委員長)

三ツ木 ゆたかまつりという名前で出発したこの「まつり」ですが、3年たつたところで品川健康まつりという名前になり定着しました。今回は、5月19日に行われましたが、開始直前まで「雨」と大変でした。しかし、はじまる頃には晴れ間が広がり楽しいまつりとなりました。健康チェックも好評で55人が受けられ、骨密度測定は40人、生協への加入は5人でした。来年も楽しくやっていきたいので、ご協力をお願いします。

